

企業DXを推進する指標の在り方に関する検討会

第10回 事務局説明資料

2025年9月

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課

目次

1. 第9回検討会における議論の振り返り
2. これまでの検討会における合意内容の確認
3. 第10回検討会における論点
4. 今後のスケジュール

1. 第9回検討会における議論の振り返り

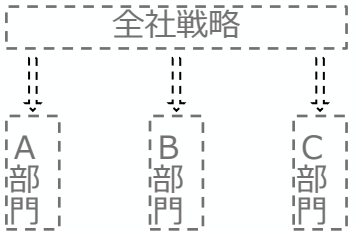
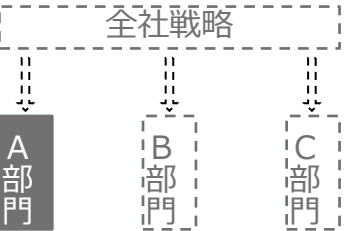
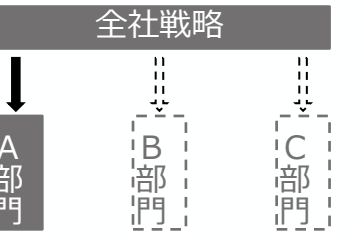
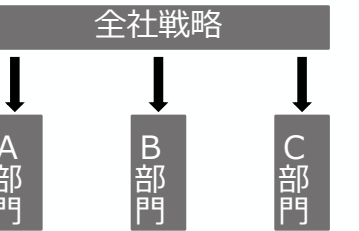
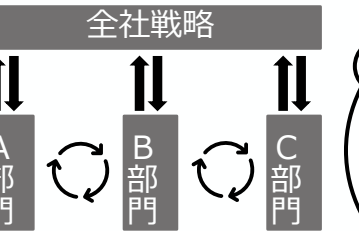
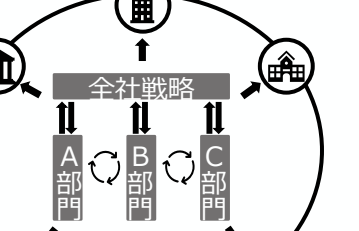
第9回検討会における各論点に対する議論の振り返り

**具体的なDX推進指標（仮）の項目に言及しているため、
非公開**

2. これまでの検討会における合意内容の確認

（参考）第6回検討会における合意内容の確認

- 具体的な成熟度レベルの考え方については、下記で合意したとの理解である。

成熟度レベル・考え方		企業価値の向上を目的とした個社のDXの取組					個社を超えた取組
成熟度	考え方	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
		未着手	一部の部門での散発的実施	全社戦略に基づく一部の部門での実施	全社戦略に基づく各部門での実施	全社戦略に基づく不断の見直し・部門横断的な実施	個社の取組を超え、社会価値を創出している、 顕著な成果が現れている
							
		➢ 経営者は無関心か、関心があっても具体的な取組に至っていない	➢ 全社戦略が明確でない中、一部の部門での試行・実施にとどまっている	➢ 全社戦略は存在しているものの、各部門の取組をまとめたものになっているとともに、取組は一部の部門にとどまっている	➢ 全社戦略は存在しているものの、各部門の取組をまとめたものになっている ➢ 取組は各部門で実施されている	➢ 全社戦略が明確で各部門に浸透しており、不断の見直しを図りながら、各部門で経営目標を達成するための取組が実施され、企業文化として根付いている（「望ましい方向性」のレベル）	※例えば、 ・高度なリーダーシップを発揮し、多様なステークホルダーを巻き込んだDXの推進 ・先鋭的な先駆的なモデルの創出 などが期待される。

（参考）第5回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第5回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解である。

具体的な成熟度レベルの考え方について

- レベル5については、**成熟度レベルの記載は抽象的な表現とする**。その上で、**理解を促進するような表記を補記する**。
- **リーダー的な存在とモデル的な存在は分けて記載する**。
- **「業界」を閉じるような表現は削除する**。
- 図の上部のアイコンと右下のアイコンが同じとなってしまうので、多様なステークホルダーを読み取ることできるように変更する。

（参考）第4回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第4回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解である。

システム構築に伴う各論点について	指標の提出手段	- 実装面で制約が出てきた場合にはその限りではないが、Webフォームと同じ形式のExcelシートをダウンロードできるようにし、指標の提出手段をWebフォームで実装する方向で調整すること。 - 今後入力結果がベンチマークレポートに即座に反映できるようにするなど、データ利活用の観点についても検討すること。
	記述の項目	- 成熟度レベルの判断の基準としてエビデンスを残す観点から、任意で記述の記載を求める欄を設けること。 - 加えて、記述回答の履歴が残せるなど、利活用の面でも検討していくこと。
	企業の3年後の目標値	社内の議論を促す目的で、任意で目標値を設定させる仕様とすること。

（参考）第3回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第3回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解であるため、本日は下記を前提とした上で議論を進めて頂きたい。

具体的な成熟度 レベルの考え方

- レベル0からレベル5の段階で設定すること。
- **レベル0からレベル4は個社内の取組として、レベル5は、個社内の取組ができている前提で、個社の枠を超えた取組としてそれぞれ設定をすること。**
- **レベル5については、社会価値を創出していることや業界の中でも先進的な取組を行っていることを評価する表現とすること。**

具体的なDX推 進指標（仮）の 立て方

- レベル5は、個社の枠を超えて業界を大きく変えるイノベーションを起こしている取組を評価するものであり、**各設問におけるレベル5の記載ぶりは統一的なものにすること。**
- 連続性のある「望ましい方向性」の記載については、設問を分けず、一つの設問とすること。
- 「望ましい方向性」に記載の内容は（一部例外はあるものの）基本的にはレベル4相当であるため、**設問は抽象的な記載としつつ、各レベルの段階の記載で望ましい方向性へのステップを記載すること。**

（参考）第2回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第2回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解であるため、本日は下記を前提とした上で議論を進めて頂きたい。

設問の設定方法

- 案2（デジタルガバナンス・コードの内容をブレイクダウンした形で設問を設定）の方方向性で設問を設定していくことで合意
- 一方で、重複感のある問題はまとめる、設問数は多くならないようにする、などの工夫は今後必要

設問の成熟度レベル （具体的なイメージ含む）

- **（1）基本的事項を基にした設問（DX認定レベル）**については、内容をブレイクダウン（論点①で決めた通り）したそれぞれの設問について○×にて回答する形式とし、**（2）望ましい方方向性に関する設問**については、**成熟度レベルを適用した設問**とする。
- **具体的な成熟度レベルは、現行のDX推進指標におけるレベル0～レベル5の考え方を適用しつつ、レベル5については多くの企業から使いづらい、との声もあるため、「自社としてブランディングが確立できる取組か」「発展的な取組をしているか」など、望ましい方方向性より先の取組を表す表現とする**

定量指標の有無

- **定量指標は設定。**具体的な内容については今後検討。

（参考）第1回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第1回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解であるため、本日は下記を前提とした上で議論を進めて頂きたい。

全体の方向性		➤ 指標は、 DX推進施策全体の政策の連続性も鑑みて検討を進めていくこと 。そのために、政策の連続性から逸脱するものにはしないこと。
総論	指標を活用する目的	➤ 指標は、①企業に気づきを与えること、及び②企業が抱える問題を深く知ること、をそれぞれ目的として改訂を進めること。 ➤ その上で、政策の連続性も鑑みて、①DX認定を目指す企業、及び②より先進的なDXの取組を目指す企業（DX銘柄・DXセレクションを目指す企業）をターゲットとしていくこと。
	指針の方針	➤ 指標の内容は、DX推進施策の考えとして共通的な デジタルガバナンス・コードに沿ったもの にしていくこと。
	指針の構成	➤ 指標の構成は、 企業規模では分類しないこと 。

3. 第10回検討会における論点

論点①：定性指標の全体確認について

**具体的なDX推進指標（仮）の項目に言及しているため、
非公開**

（参考）第3回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第3回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解であるため、本日は下記を前提とした上で議論を進めて頂きたい。

具体的な成熟度 レベルの考え方

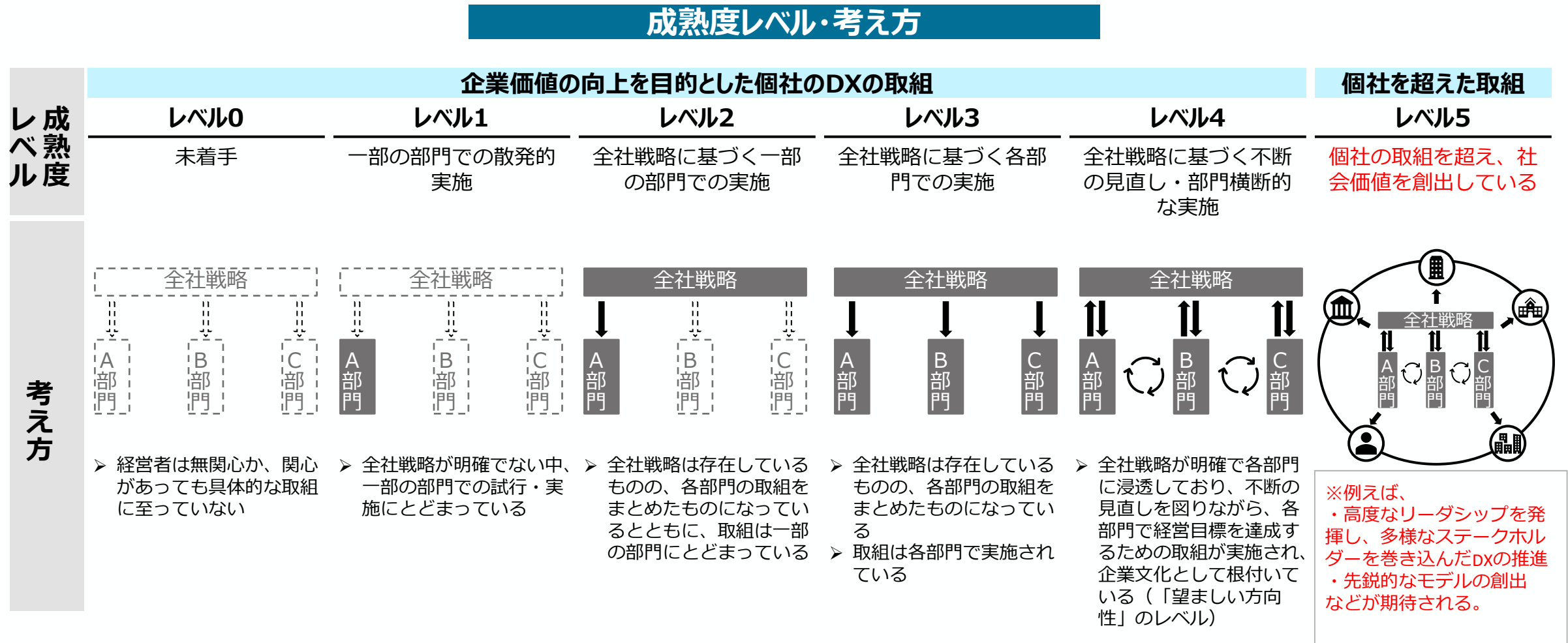
- レベル0からレベル5の段階で設定すること。
- レベル0からレベル4は個社内の取組として、レベル5は、個社内の取組ができている前提で、個社の枠を超えた取組としてそれぞれ設定をすること。
- レベル5については、社会価値を創出していることや業界の中でも先進的な取組を行っていることを評価する表現とすること。

具体的なDX推 進指標（仮）の 立て方

- レベル5は、個社の枠を超えて業界を大きく変えるイノベーションを起こしている取組を評価するものであり、レベル5の記載ぶりは統一的なものにすること。

（再掲・参考）第6回検討会における合意内容の確認

- 具体的な成熟度レベルの考え方については、下記で合意したとの理解である。



論点②：定量指標の設定について

- 第2回検討会において、DX推進指標において、定量指標についても設定することを合意したものの。
- これを踏まえ第10回検討会においては、定量指標の内容に関し、大きく下記の2点について、御議論いただきたい。

I：定量指標の分類について

II：定量指標の設問内容について

（参考）定量指標の有無についてどのように考えるか

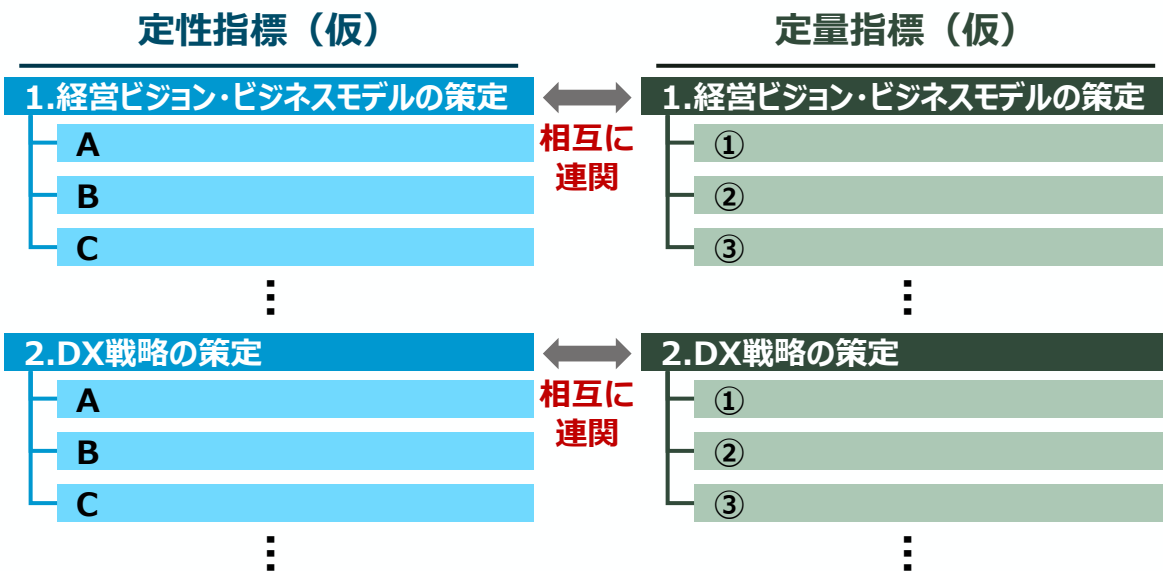
検討 の 前提

- 現行のDX推進指標においては、定性指標のみならず、定量指標についても設定。
- 一方、定量指標はあくまで任意での提出を求めているものであり、ベンチマークレポートにおいても定量指標を用いた相対評価は提供していない状況。

定量指標の設定有無に関する案

案1

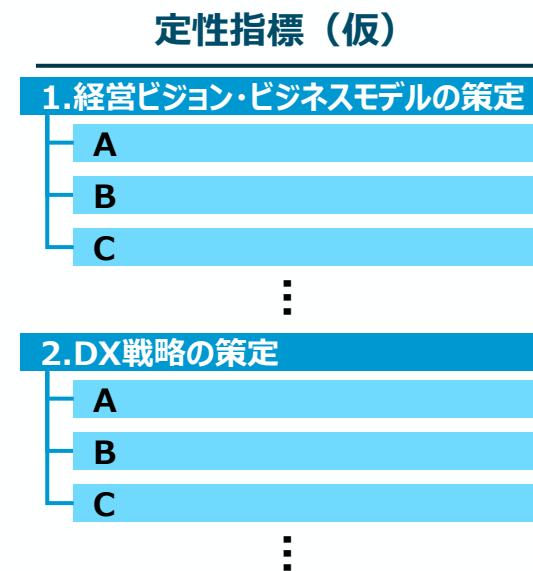
- 定量指標を設定する



デジタルガバナンス・コードと連動した定性指標・定量指標を設定

案2

- 定量指標は設定せず、定性指標のみを設定する



デジタルガバナンス・コードと連動した定性指標のみを設定

（参考）検討材料及び事務局案

4. 成果指標の設定・DX戦略の見直し （デジタルガバナンス・コード）

（1）基本的事項

①柱となる考え方

- 企業は、DX戦略の達成度を測る指標を定め、指標に基づく成果についての自己評価を行う。

②認定基準

- DX戦略の達成度を測る指標について公表していること。

※ 指標については、定量指標のほか、達成したか否かが判断できる定性指標も含まれる。

（2）望ましい方向性

- DX戦略・施策の達成度は、実施している全ての取組に定量・定性問わず、KPI（重要な成果指標）を設定し、評価されている。

※ 関連箇所のみ抜粋

定量指標に関する主なヒアリング内容

- DX推進指標を活用する上で**定量指標はマイルストーンを立てるきっかけ**になった。
- 定量指標は自由に書けるのはいいが、説明欄の内容について製造業に寄っているところがあり、**サービス業だと記入が難しいと感じる**。
- 定量指標の記入が難しく、活用できていない。**可視化しようとしたが、定義付けが難しい**。
- ベンチマークレポートに、定性指標の情報しか示されていないため、**定量指標についても集計した結果等を公開頂きたい**。他社事例としてこういった結果のものがあるか戦略を検討するうえで参考にしたい。

事務局案

- デジタルガバナンス・コードにおけるDX認定の基準（4. 成果指標の設定・DX戦略の見直し）において「指標については、定量指標のほか、達成したか否かが判断できる定性指標も含まれる。」しており、**DX戦略の達成度を測る観点から、定量指標も重要**。そのため、**事務局として「案1」が良いのではないか**、と思うがいかがか。
- 一方、**現状のDX推進指標における定量指標は回答しづらい、という声も多くある**。また、ベンチマークレポート等により自社の相対的な立ち位置が分かるように開示もされておらず、**どのような定量指標を設定するか、また、どのように定量指標を活用していくべきか、を検討していくことが今後必要**（具体的には第3回検討会以降で議論）。

(参考) 現行のDX推進指標における定量指標

3.3 定量指標の考え方 情報処理推進機構「『DX推進指標』とそのガイダンス」より抜粋

「DX 推進の取組状況」については、例えば、意思決定のスピード向上や新規顧客・サービスの拡大に関する指標など、DX の実行によって経営にもたらされる変化を反映できるものについていくつか事例を用意しているが、基本的には、自社が DX によって伸ばそうとしている定量指標を**自ら選択して算出するとともに、例えば、3 年後に達成を目指す当該指標に関する数値目標を立て、進捗管理を行っていくといった活用方法を想定**している。また、「IT システム構築の取組状況」については、基本的に企業単位での評価を想定しているため、自社で対象とするシステムやサービス、データをいくつか特定した上で回答することを想定している。

大分類	中分類	小分類	項目
DX推進の 取組状況	DXによる競争力強化の 到達度合い	研究＆開発	製品開発スピード
		マーケティング	新規顧客獲得割合
		調達・購買	支出プロセスにおける効率性
		会計・経理	決算処理スピード
			Cash Conversion Cycle
			フォーキャストサイクルタイム
	DXの取組状況	デジタルサービス	企業全体に占めるデジタルサービスの割合 [%]
			デジタルサービス全体の利益 [円]
			デジタルサービスへの投資額 [円]
			デジタルサービスに従事している従業員数 [人]
			新サービスを利用する既存顧客の割合 [%]
		デジタルプロジェクト	DXのためのトライアルの数 [件]
		業務提携	DXのための業務提携の数 [件]
		デジタル化	業務プロセスのデジタル化率 [%]
ITシステム構築の 取組状況	ITシステム構築の取組状況	予算	ラン・ザ・ビジネス予算とバリュー・アップ予算の比率 [%]
		人材	DX人材（事業）の数 [人]
			DX人材（技術）の数 [人]
			DX人材育成の研修予算 [円]
		データ	データ鮮度 [リアルタイム／日次／週次／月次]
		スピード	サービス改善のリードタイム [日]
			サービス改善の頻度 [回]
		アジリティ	アジャイルプロジェクトの数 [件]

（参考）第2回検討会における合意内容の確認

- DX推進指標の改訂において、第2回検討会を踏まえて、下記の方方向性で合意したとの理解であるため、本日は下記を前提とした上で議論を進めて頂きたい。

設問の設定方法

- 案2（デジタルガバナンス・コードの内容をブレイクダウンした形で設問を設定）の方方向性で設問を設定していくことで合意
- 一方で、重複感のある問題はまとめる、設問数は多くならないようにする、などの工夫は今後必要

設問の成熟度レベル （具体的なイメージ含む）

- **（1）基本的事項を基にした設問（DX認定レベル）**については、内容をブレイクダウン（論点①で決めた通り）したそれぞれの設問について○×にて回答する形式とし、**（2）望ましい方方向性に関する設問**については、**成熟度レベルを適用した設問**とする。
- **具体的な成熟度レベルは、現行のDX推進指標におけるレベル0～レベル5の考え方を適用しつつ、レベル5については多くの企業から使いづらい、との声もあるため、「自社としてブランディングが確立できる取組か」「発展的な取組をしているか」など、望ましい方方向性より先の取組を表す表現とする**

定量指標の有無

- **定量指標は設定。**具体的な内容については今後検討。

論点②：I. 定量指標の分類について

- これまでの定性指標に関する検討会における議論内容を踏まえ、**定量指標**についても同様に、**デジタルガバナンス・コード**に合わせて分類することていがか。

現行の定量指標の分類

大分類	中分類	小分類	項目
DX推進 の取組状 況	DXによる 競争力 強化の到 達度合い	研究＆開発	製品開発スピード
		マーケティング	新規顧客獲得割合
		調達・購買	支出プロセスにおける効率性
		会計・経理	決算処理スピード
			Cash Conversion Cycle
			フォーキャストサイクルタイム
	DXの取 組状況	デジタルサービス	企業全体に占めるデジタルサービスの割合 [%]
			デジタルサービス全体の利益 [円]
			デジタルサービスへの投資額 [円]
			デジタルサービスに従事している従業員数 [人]
			新サービスを利用する既存顧客の割合 [%]
		デジタルプロジェクト	DXのためのトライアルの数 [件]
		業務提携	DXのための業務提携の数 [件]
ITシステ ム構築の 取組状 況	ITシステ ム構築の 取組状 況	デジタル化	業務プロセスのデジタル化率 [%]
		予算	ラン・ザ・ビジネス予算とバリュー・アップ予算の比率 [%]
		人材	DX人材（事業）の数 [人]
			DX人材（技術）の数 [人]
			DX人材育成の研修予算 [円]
		データ	データ鮮度 [リアルタイム／日次／週次／月次]
		スピード	サービス改善のリードタイム [日]
			サービス改善の頻度 [回]
		アジリティ	アジャイルプロジェクトの数 [件]

DGCに合わせた定量指標の分類（案）

デジタルガバナンス・コードの柱	項目
1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定	－
2. DX戦略の策定	データ鮮度 [リアルタイム／日次／週次／月次] 製品開発スピード 新規顧客獲得割合 新サービスを利用する既存顧客の割合 [%] DXのためのトライアルの数 [件] 業務プロセスのデジタル化率 [%] 企業全体に占めるデジタルサービスの割合 [%] デジタルサービス全体の利益 [円]
3-1. 組織づくり	支出プロセスにおける効率性 デジタルサービスへの投資額 [円] DXのための業務提携の数 [件] ラン・ザ・ビジネス予算とバリュー・アップ予算の比率 [%] アジャイルプロジェクトの数 [件] 決算処理スピード Cash Conversion Cycle フォーキャストサイクルタイム
3-2. デジタル人材の育成・確保	デジタルサービスに従事している従業員数 [人] DX人材（事業）の数 [人] DX人材（技術）の数 [人] DX人材育成の研修予算 [円]
3-3. ITシステム・サイバーセキュリティ	サービス改善等に関するシステム・ソフトウェア開発のリードタイム [日] サービス改善等に関するシステム・ソフトウェア開発の頻度 [回]
4. 成果指標の設定・DX戦略の見直し	－
5. ステークホルダーとの対話	－

論点②：Ⅱ．定量指標の設問内容について

現行の定量指標の活用状況

- 現行の定量指標においては、どの設問も1,000者以上より回答がなされている。各設問について、多くの企業よりご活用いただいている状況。

大分類	中分類	小分類	項目	回答企業数
DX推進の取組状況	DXによる競争力強化の到達度合い	研究＆開発	製品開発スピード	1,578
		マーケティング	新規顧客獲得割合	1,591
		調達・購買	支出プロセスにおける効率性	1,328
		会計・経理	決算処理スピード	1,555
			Cash Conversion Cycle	1,407
			フォーキャストサイクルタイム	1,415
	DXの取組状況	デジタルサービス	企業全体に占めるデジタルサービスの割合 [%]	1,620
			デジタルサービス全体の利益 [円]	1,442
			デジタルサービスへの投資額 [円]	1,529
			デジタルサービスに従事している従業員数 [人]	1,667
			新サービスを利用する既存顧客の割合 [%]	1,381
		デジタルプロジェクト	DXのためのトライアルの数 [件]	1,495
		業務提携	DXのための業務提携の数 [件]	1,434
ITシステム構築の取組状況	ITシステム構築の取組状況	デジタル化	業務プロセスのデジタル化率 [%]	1,497
		予算	ラン・ザ・ビジネス予算とバリュー・アップ予算の比率 [%]	1,630
		人材	DX人材（事業）の数 [人]	5,174
			DX人材（技術）の数 [人]	5,471
			DX人材育成の研修予算 [円]	4,926
		データ	データ鮮度 [リアルタイム／日次／週次／月次]	1,716
		スピード	サービス改善のリードタイム [日]	1,492
			サービス改善の頻度 [回]	1,437
		アジリティ	アジャイルプロジェクトの数 [件]	1,537

(注) 2019年6月30日～2025年7月11日までにDX推進指標の提出のあった事業者を集計（重複含む）。また、「回答企業数」については、「現在」に記載のあった企業数を集計。回答企業数においては、一部無効回答（「設定なし」「－」「非開示」等）を含む。

論点②：Ⅱ．定量指標の設問内容について

定量指標の考え方について

- また、現行のDX推進指標において記載されている「定量指標の考え方」については、引き続き重要な観点であると思慮。
- 多くの定量指標から、企業が自らの状況に合った定量指標を選択し、算出できることが必要ではないか。

情報処理推進機構「『DX推進指標』とそのガイダンス」より抜粋

3.3 定量指標の考え方 「DX 推進の取組状況」については、例えば、意思決定のスピード向上や新規顧客・サービスの拡大に関する指標など、DX の実行によって経営にもたらされる変化を反映できるものについていくつか事例を用意しているが、基本的には、自社が DX によって伸ばそうとしている定量指標を**自ら選択して算出するとともに、例えば、3 年後に達成を目指す当該指標に関する数値目標を立て、進捗管理を行っていくといった活用方法を想定**している。

また、「IT システム構築の取組状況」については、基本的に企業単位での評価を想定しているため、自社で対象とするシステムやサービス、データをいくつか特定した上で回答することを想定している。

論点②：Ⅱ．定量指標の設問について

画一的な定量指標の設定について

- ベンチマークレポート等による企業への情報や、政府における施策検討のための企業情報の把握を目的として、現行の設問をより限定する形で、画一的な定量指標・設問を設定することの意義も大きいと考えられる。
- これに関連し、画一的な定量指標の設定、活用について企業との意見交換を行ったところ、その設定内容や活用の在り方については、いくつかの課題が生じうる状況である。

画一的な定量指標の活用に関するヒアリング結果

- 規模や業種問わない画一的な定量指標の活用は困難であると思う。
- 画一的な定量指標を活用できるかという点不明である。利益率など相対的に比較できるものは参考になる。
- 経営の判断として、他社と同等でないといけないということであれば、他社をベンチマークしながらということもあり得るが、数字のみを参照・考慮するものではないと考えている。
- 他社と共通の指標について議論することはあるが、それによって指標を設定することには至らない。定量指標の結果よりも、プロセスが見えると参考になる。

論点②：Ⅱ．定量指標の設問について

画一的な定量指標の設定について

- 画一的な定量指標を設定し、企業への情報提供や、政府としての施策の検討において活用を行うにあたっては、回答方法（測定すべき数値）についても指定を行う必要があると思慮。現行の定量指標においては、企業における様々な回答内容が存在している。
- 政府として回答方法（測定すべき数値）を指定する場合は、企業が自社の状況に応じて回答方法を選択できることとのメリット・デメリットの比較検討を行う必要がある。

論点②：Ⅱ．定量指標の設問について

事務局案

- これらの状況を踏まえ、定量指標については、下記のような方針において検討をいただくことでいかがか。それぞれの論点について御議論いただきたい。

【A.定量指標の設問内容の検討について】

- 現行の定量指標について、どの設問も一定程度企業より利用されていること、また多様な設問を確保し、企業が自ら選択できる環境の構築が重要であることから、現行の定量指標を基に、不足している設問（定量指標）・新たに追加すべき設問について検討していくことがよいのではないかな。

【B.より画一的な定量指標を設定し、ベンチマークレポート等に活用することについて】

- 画一的な定量指標を設定する場合においては、多くの企業において回答ができ、且つ活用が可能な指標・設問とする必要があると思慮。
- こうした設問の設定を行うにあたっては、経済産業省やIPAにおいて、現行の定量指標の分析や企業への意見の聴取等を更に進め、より詳細且つ継続的な検討を行う必要がある。
- 画一的な定量指標を設けることの政策的意義は大きいことに違いはなく、例えば、改訂後の定量指標において、回答を推奨する設問を設けるなど、段階を踏んで、画一的な定量指標の設定について検討を進めていくことがよいのではないかな。

論点②：Ⅱ．定量指標の設問について

デジタルガバナンス・コードの柱	項目	概要
1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定	ー	ー
2. DX戦略の策定	データ鮮度 [リアルタイム／日次／週次／月次]	経営が迅速に把握すべきと考えているデータをいくつか特定し、それについてどの程度の頻度（期間）で締め（確定）処理が行われているかと3年後の目標値
	製品開発スピード	タイム・トゥ・マーケット（新製品開発における研究開発の予算措置から市場提供まで）
	新規顧客獲得割合	新規顧客からの売上の割合、新製品からの売上の割合。経年変化により着目。
	新サービスを利用する既存顧客の割合 [%]	ー
	DXのためのトライアルの数 [件]	ー
	業務プロセスのデジタル化率 [%]	ー
	企業全体に占めるデジタルサービスの割合 [%]	売上もしくは顧客数などで経年変化に着目
	デジタルサービス全体の利益 [円]	絶対値 or 割合
	支出プロセスにおける効率性	統制下にある支出の割合、定型の購買サービスを用いた支出割合。
	デジタルサービスへの投資額 [円]	絶対値 or 割合
	DXのための業務提携の数 [件]	DXのためのExitプランが明確になっているアライアンスやM&Aの件数
3-1. 組織づくり	ラン・ザ・ビジネス予算とバリュー・アップ予算の比率 [%]	ラン・ザ・ビジネス予算とバリュー・アップ予算の比率、と3年後の目標値 ※ IT部門の支出するもののみでなく、事業部門のIT投資も足し合わせていることが望ましい
	アジャイルプロジェクトの数 [件]	アジャイルプロジェクトの数と3年後の目標値
	決算処理スピード	代表的な会計処理として効率を測定。 ※決算処理日数（年次）など
	Cash Conversion Cycle	資金繰りに関する指標として、仕入れから販売に伴う現金回収までの日数。
	フォーキャストサイクルタイム	予算見直しをアジャイルに行っているか。
3-2. デジタル人材の育成・確保	デジタルサービスに従事している従業員数 [人]	絶対値 or 割合
	DX人材（事業）の数 [人]	事業部門などにおいて、顧客や市場、業務内容に精通しつつ、データやデジタル技術を使って何ができるかを理解し、DXの実行を担う人材の数と3年後の目標値
	DX人材（技術）の数 [人]	デジタル技術やデータ活用に精通した人材の数と3年後の目標値
	DX人材育成の研修予算 [円]	DX人材を育成するための研修予算と、3年後の目標値
3-3. ITシステム・サイバーセキュリティ	サービス改善等に関するシステム・ソフトウェア開発のリードタイム [日]	リードタイムの短縮を目指すサービスをいくつか特定し、それぞれに対するITシステムについて、改修企画の立案からサービス開始までの期間と3年後の目標値
	サービス改善等に関するシステム・ソフトウェア開発の頻度 [回]	サービス改善の頻度向上を目指すサービスをいくつか特定し、それぞれに対するITシステムについて、サービス改善（リリース）頻度と3年後の目標値
4. 成果指標の設定・DX戦略の見直し	ー	ー
5. ステークホルダーとの対話	ー	ー

論点③：企業における試行的活用について

- 推進指標策定時においては、企業において推進指標を使用する際に生じる課題を事前に把握し、設問内容等を改善させることを目的に、約30社の企業に対し、施行前の推進指標を用いた自己診断への協力（試行的活用）を依頼していたもの。

策定当時の試行的活用に係る協力依頼内容

1. 「DX推進指標（試行版）」を用いた自己診断

- 経営者自らもしくは経営者が経営幹部、事業部門、IT部門等と議論しながら、各指標項目にご回答いただきたい。

2. 活用結果のフィードバック

- 自己診断を実施するに当たっての指標（項目定義）等の問題点や改善点についてご意見いただきたい。

<フィードバックの観点>

- 自己診断として、どれくらいの時間をかけて、どのようなメンバーで実施したか
- 自己診断を実施する上で、指標の意図するところが不明確な項目はなかったか
- 成熟度レベルを選択する際に、どちらを選択すればよいか不明な項目はないか
- エビデンスを示すのが困難な項目や、用意するのに時間がかかる項目はないか
- 定量指標について、算出が困難な項目もしくは新規に追加すべき項目はないか
- 診断を実施した結果、DX推進に向けた課題の発見や次に何をすべきかの気付きを得ることができたか
- その他、全体を通して改善すべき点があればご意見いただきたい

論点③：企業における試行的活用について

事務局案

- 今般の改訂においては、設問の構成及び設問内容を現行の推進指標から大幅に変更することとなるため、推進指標策定時と同様に、試行的活用を実施することでいかがか。
- なお、試行的活用を踏まえ、更なる修正が必要となる設問が生じた場合は、座長ともご相談の上で、その取り扱いについて検討させていただきたい。

論点③：企業における試行的活用について

- 業種や企業規模、属性等に偏りがないように依頼先企業を選定した上で、企業に対し、改訂版DX推進指標の試行的活用について依頼を行う。現状の企業案は別紙の通りであり、ご意見をいただきたい。

試行的活用依頼先企業（案）

	中堅、中小企業	大企業
建設業	1	2
製造業	4	5
電気・ガス	0	1
情報通信業	4	3
運輸業	2	2
卸売業、小売業	4	2
金融業	1	1
不動産業	1	1
サービス業	3	2
合計	20	19

論点④：DX推進指標の認知拡大・活用促進について

- 推進指標策定時においては、経済産業省のプレスリリースでの広報や、DX推進指標「集中実施期間」を設けるなど、様々な認知拡大施策・活用促進施策を講じてきた。
- 今般の改訂においても、以下のような広報活動（例）を行う予定であるが、これらも含め、認知拡大施策・活用促進施策等のありかたについて、御意見をいただきたい。

広報活動（例）

【DX推進指標の認知拡大】

- DX認定やDXセクション等、他の政策との連携による周知や、地方局を通じた地方自治体等への周知
- HPでのプレスリリースや、ウェブ広告などの広報活動

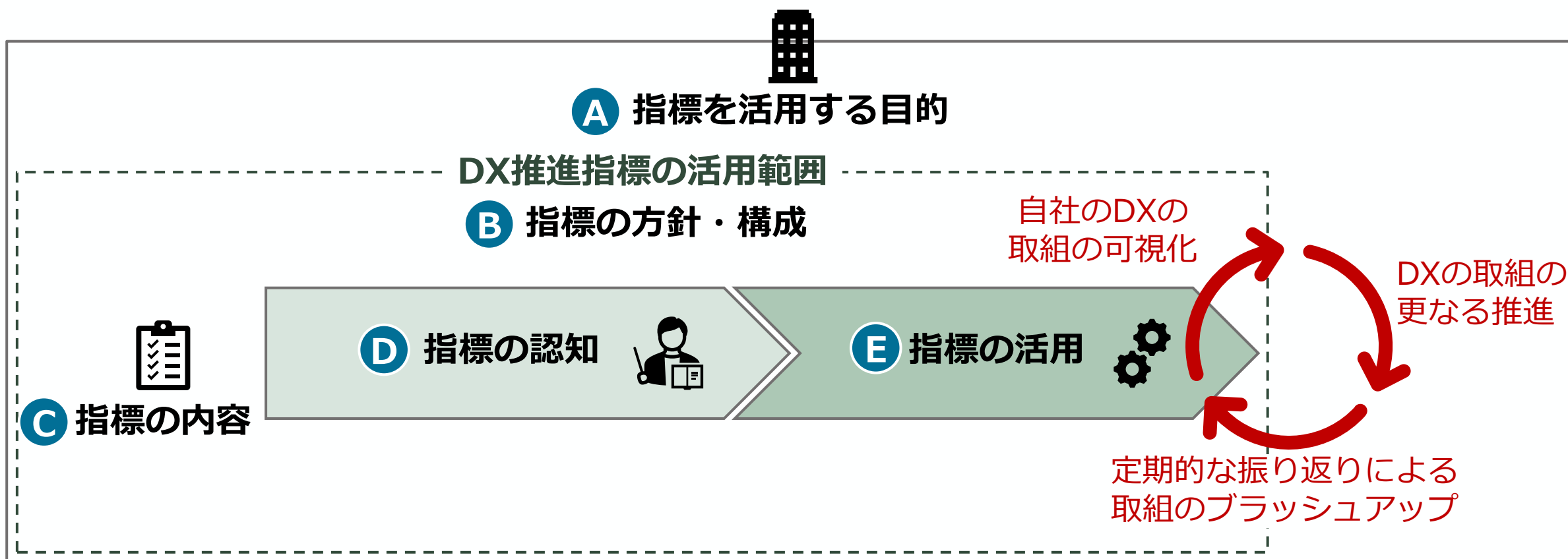
【DX推進指標の活用促進】

- ベンチマークレポートや分析レポートの提供方法、活用事例の掲載など、企業が自社のDX推進に活かせる方法を検討
- 中小企業等が回答しやすいように補助するツール（ガイダンスやWebフォームでの補足説明等）の検討

（参考）DX推進指標検討に係る課題と論点の考え方

- 企業DX推進におけるDX推進指標の活用と理想像をベースとして課題と論点を整理。

企業DX推進におけるDX推進指標の活用と理想像



4. 今後のスケジュール

検討会スケジュール

検討会日程	アジェンダ
第1回 2025年1月16日	➤ DX推進指標の振り返りと現状の活用状況の共有、DX推進指標に係る課題と論点の提示及び総論（指標を活用する目的、指標の方針・構成）に関する議論
第2回 2025年3月28日	➤ 総論に関する議論を踏まえ、指標の内容について議論
第3回 2025年4月24日	➤ 第2回までの議論を踏まえ、成熟度レベルの具体的な考え方及び具体的な指標の中身の作成方法について議論
第4回 2025年5月23日	➤ システム構築に伴う各論点、具体的な成熟度レベルの考え方及びDX推進指標（仮）の具体的な設問（「1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定」）について議論
第5回 2025年6月6日	➤ DX推進指標（仮）の具体的な設問（「2. DX戦略の策定」、「3-1. 組織づくり」）について議論
第6回 2025年6月16日	➤ DX推進指標（仮）の具体的な設問（「3-1. 組織づくり」、「3-2. デジタル人材の育成・確保」）について議論
第7回 2025年6月24日	➤ DX推進指標（仮）の具体的な設問（「3-2. デジタル人材の育成・確保」、「3-3. ITシステム・サイバーセキュリティ」）について議論
第8回 2025年7月17日	➤ DX推進指標（仮）の具体的な設問（「3-3. ITシステム・サイバーセキュリティ」、「4. 成果指標の設定・DX戦略の見直し」）について議論
第9回 2025年7月23日	➤ DX推進指標（仮）の具体的な設問（「4. 成果指標の設定・DX戦略の見直し」、「5. ステークホルダーとの対話」）について議論
第10回（本日） 2025年9月5日	➤ 定性指標の全体確認、定量指標に関する議論及び指標の認知及び活用等について議論